

令和4年度 第3回 追分小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和4年10月31日（月） 14時00分から15時10分まで
- 2 開催場所 浜松市立追分小学校 会議室
- 3 出席委員 松田 勝、大原 いずみ、小山 正博、大澤 一夫、松本 依子、  
内山 丈夫、今泉 るり子
- 4 欠席委員 河村 進
- 5 学 校 坪井 百合子（校長）、佐野 尚也（CS担当）  
山田 公子（CSディレクター）
- 6 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課）
- 7 傍聴者 なし
- 8 協議事項  
（1）議長の確認について  
（2）学校支援活動について  
（3）次回の議長について
- 9 会議録作成者 CSディレクター 山田 公子
- 10 会議記録

司会の佐野（CS担当）から、委員総数8人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）議長の選出について

司会から、議長について委員に確認を行い、前回決定事項である松本副会長を推挙する旨の発言があり、協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

（2）学校支援活動について

議長の指示により、今泉委員から、別紙資料に基づき学校支援活動について説明があり、委員からは、以下の発言があった。

① 授業参観並びにミシン活動支援

- ・5年生は初のミシンということで、基本的な作業の御手伝いをした。活動は上糸下糸の準備、直線縫いなど平易なもので、参加しやすいと感じた。上手くできた時には児童も喜び、自分も分かってもらえる喜びでお互いに楽しい活動である。（松本議長）
- ・授業の中で、現状を認めヒントを出すことで、児童の向上へと導くことができていたのが素晴らしい。また、児童の素直な反応や気持ちを引き出し、「いいね」を見つけて伸ばし、共有することが重要であると感じる。（松田会長）
- ・授業参観で子供たちの様子を見て、課題も垣間見えた。通常授業時だけでなく、CSにおける活動が、知識や技術面だけでなく、松田会長の御意見のような、気付きや向上の契機となる事を期待している。（小山委員）

## ② 親しみやすい愛称について

- ・コミュニティスクール内のボランティアを募るときの愛称として、「応援団」「お手伝い」など分かりやすい愛称はよいと思う。(小山委員)
- ・堅苦しいよりも親しみがある方がよいと思う。しかし、見慣れない名称もある程度時間が経てば定着していくこともあり、すぐに決めなくてもよいのではないか。(大澤委員)
- ・活動をしていく中で、愛称についての案が出てきてから、また会議内で検討するということがどうか。(内山委員)
- ・愛称は、分かりやすい「〇〇ボランティア」などもよいと思う。(大原委員)
- ・子供にも分かるように、親しみやすい愛称がよいのではと考える。(松本議長)

## ③ 地域への周知の方法について

- ・ミシン活動など、実際の活動に御協力をいただいた方に「手応えがあった」など御意見をいただくことや、児童から感想を聞くなど、現場の声を具体的に発信していくことが、より多くの方に参加への興味をもっていただくために効果的ではないか。(松田会長)
- ・ボランティア活動は回覧で周知する事もよいと思うが、募集が難しい場合もあるため、まずはやはり、児童の保護者や家族など、直接関わりがある方々に募集をかける方が手を挙げてもらいやすいのではと感じる。(大澤委員)
- ・大澤委員と同じく、周知は児童やPTAを通して行うのが一番よいのではないかと思う。(内山委員)
- ・幅広い交流をお持ちの各自治会長には、様々な人材を御紹介いただける可能性がある。子供会を通して自治会長へアプローチするなどの方法はどうか。(大原委員)
- ・ミシンのボランティアに参加した際、一緒に活動した方と交流がもて、コミュニティが広がった。このように保護者からアタックし、徐々に横の繋がりに広げることが周知に力を貸すのではないか。(松本議長)

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。また、現在の実情や課題を共有した。

## (3) 次回の議長について

司会から、次回の議長について、前回決定事項である松本委員の推挙への確認を委員に求めたところ、全員異議なくこれを承認した。

## その他報告事項等

司会から次回会議時に必要である学校運営協議会自己評価について説明があり、全員これを了承した。

司会から、次回会議は、2023年2月13日(月)午後1時30分から追分小学校会議室で開催する旨の報告があった。